

地域と大学

第43号

Newsletter No.43, Education Center for Regional Development

持続可能な社会と静岡大学

理事(教育・附属学校園担当)／副学長、未来社会デザイン機構長 塩尻 信義

私は、今年の4月に未来社会デザイン機構長を拝命しました。未来社会デザイン機構は、持続可能な社会とすべての人のウェルビーイングを目指して、未来社会のデザインに挑戦する組織として、令和2年4月、静岡大学に設置されました。私自身の前所属は理学部、専門は発生生物学で、マウスの肝臓の発生と再生について長らく研究活動にたずさわり、最近では肝臓の構築の多様性から脊椎動物の多様性と進化を探る研究プロジェクトも進めてきました。そして実際の生物の多様性を間近に見るたびに、この多様性を継承していく責任が私たちにあるということを強く感じてきました。この認識をふまえ、持続可能な社会の実現を目指して、勉強を続けているところです。

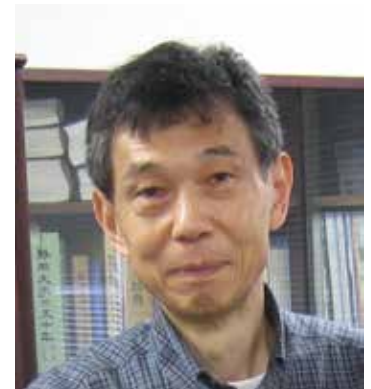
未来社会デザイン機構が目指す持続可能な社会に加え、脱炭素社会の実現についても毎日のように報道がされております。それは、これらが喫緊の課題でもあるからです。脱炭素社会については持続可能な社会に含まれる部分が多いのですが、両社会の実現が論じられる時、大学の立ち位置が強く問われているように思います。大学が知の拠点、そして地の拠点を標榜するならば、これら喫緊の課題に対し社会あるいは地域をリードできることが求められています。一般に、大学の使命として、教育、研究、国際連携、社会・産学連携が挙げられますが、両社会の実現に向けて大学はこれら全ての面で機動的に動いていく必要があります。

静岡大学では、未来社会デザイン機構等を中心に持続可能な社会の実現に向け、様々な取り組みを行なっております。機構では、それぞれの地域課題についてまず到達すべき目標を立て、その目標からバックキャスト的に具体的に実行すべきプロジェクトを導き出す形

をとり、パートナーシップと対話にもとづいて、地域連携活動を推進しています。具体には説明しませんが、機構が現在手がける松崎町での取り組みが一つの先導モデルになるのではと期待しております。

脱炭素社会に向けての取り組みも行う予定です。そして大学の教育機能は極めて重要で、国際的な観点を持ち、持続可能な社会や脱炭素社会の実現を意識し、行動できる人材の育成も急務でもあります。知の拠点としての研究機能も充実させる必要があり、脱炭素等に関わるイノベーションにつながる研究の展開はもちろん、多様な基礎研究も推進すべきです。そしてこれらの活動が一体となった地(知)の拠点を形成することが理想です。それには、大学と社会あるいは地域の意識がそれぞれの構成メンバーの意識も含め同じ方向に向かい、協働していく必要があります。

持続可能な社会、脱炭素社会の実現に向けていかに未来社会をデザインできるか、まだはじまったばかりですが、この歩みを止めることはできないというのが現状のように感じます。一步一步進めていく必要があります。学内外のご協力をお願いしたいと思っています。



2021年度静岡大学公開講座

静岡大学では、地域社会に対し広く学習の機会を提供することを目的として、1978（昭和53）年より公開講座を実施しています。

今年度の公開講座は、下の表のとおり、4月から翌年3月にかけて多彩な13講座を実施しています。担当教職員それぞれの専門分野を生かした、特色ある講座となっています。

静岡と浜松にキャンパスをもつ静岡大学の特徴を生かし、県内各地で開講します。

なお、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を受け、止む無く延期・中止する講座があります。最新情報は地域人材育成・プロジェクト部門HPでご確認ください。

<https://www.lc.shizuoka.ac.jp/>



講座名	講師	日時	会場	対象	各日定員	受講料	主催
日本人の知らない世界 [全14回]	人文社会科学部教授・張 盛開 人文社会科学部教授・埋田重夫 国際連携推進機構特任教授・比留間洋一 人文社会科学部教授・南 富鎮 人文社会科学部教授・勝山幸人 静岡大学名誉教授・田村充正 人文社会科学部教授・熊谷滋子 人文社会科学部教授・小二田誠二 人文社会科学部教授・堀 博文 学長補佐室特任教授・ダリウス・グレニジ 人文社会科学部教授・鈴木実佳 人文社会科学部教授・安永 愛	4/17・24、5/15・29、 6/26、7/10、 9/18・25、10/2・16・30、 11/20、12/4 (いずれも土曜日) 14:00～16:00 4/17は13:00～16:00 (13:00～13:50・14:00～ 16:00)、 5/29は13:00～15:00	対面（静岡キャンパス）とオンライン（Zoomミーティング）の併用	一般市民	対面50 オンライン30	無料	人
山のリスクとそのマネジメント	教育学部教授・村越 真	5/8(土)14:00～16:00	オンライン (Zoomミーティング)	Zoomミーティングに参加可能な方	90	無料	教
安心登山のための読図とナビゲーション（スマホ利用編）	ブロードベンチャーレーサー・宮内佐季子 教育学部教授・村越 真	5/15(土)9:30～16:00	静岡キャンパスおよび屋外	スマホやタブレットの地図アプリを利用して登山を楽しみたいと考える市民	25	2,400	教
子どもの「やってみよう！」を支えるために：遊びの中のリスクマネジメント	教育学部附属幼稚園副園長・柴田知江 教育学部教授・村越 真	6/9(水)9:30～11:30	静岡大学附属幼稚園園庭（雨天時：遊戯室）	小学校就学前の子どもの保護者（満2～4歳のお子様の同伴可）	20	無料	教
静岡の自然と文化 ～富士山・県東部を中心に～	未来社会デザイン機構教授・小山真人 人文社会科学部、地域創造学環教授・小二田誠二	6/19(土)13:00～16:15	プラサヴェルデ	一般市民	80	無料	地
作って学ぶ、工学部の化学実験	工学部教授・植田一正 技術部技術専門職員・草薙弘樹 技術部技術職員・早川敏弘	7/31(土)、8/1(日) いずれも10:00～13:00	浜松キャンパス	中学生・高校生（保護者同伴可）	20	無料	工
体験!大学の化学実験 [全2回] ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	グリーン科学技術研究所教授・近藤 満	8/21(土)・22(日) 10:00～16:00	静岡キャンパス	中学生・高校生（保護者同伴可）、理科教育の関係者	25	無料	グ

講座名	講師	日時	会場	対象	各日定員	受講料	主催
愛おしさから読み解くくだもの の多様性～園芸と民藝の融合～ [全3回] ※新型コロナウイルス感染拡大 防止のため第1回・第2回は中 止	農学部准教授・松本和浩	8/28(土)、9/25(土)、 12/3(金)14:00～16:30	藤枝地区交流セ ンター ふれあい 広場 伊豆・松崎・で あい村 蔵ら 健康文化交流館 「来・て・こ」	くだもの歴史、 品種、味等の 多様性またはそ れらを活かした 地域活性化に 興味がある消費 者、生産者	50 20 20	無料	農
静岡大学キャンパスミュージアム 公開講座2021 [全5回] ※新型コロナウイルス感染拡大 防止のため中止	理学部非常勤講師（ふじのくに地球環 境史ミュージアム教授）・岸本年郎 理学部准教授・徳岡 徹 人文社会科学部教授・山岡拓也 理学部准教授・石橋秀巳 技術部・宮澤俊義	10/9・16・23・30、11/6 (土)10:00～12:00	静岡キャンパス	一般市民、学 生、小中高 生（中学生以 下は保護者同 伴）	20	無料	キ
市民社会と法～子どもをめぐ る社会の変容と法制の動向～ [全5回]	サステナビリティセンター 法実務部門教授・板倉美奈子 サステナビリティセンター 法実務部門教授・正木祐史 サステナビリティセンター 法実務部門客員教授・上原裕之	10/9、11/6、12/4、1/8、 2/5(いずれも土曜日) 13:30～15:30	静岡市葵生涯学 習センター (アイセル21)	一般市民	30	無料	サ
これからの教育と情報：オンラ イン授業と学習のありかた ※新型コロナウイルス感染拡大 防止のためオンデマンド形式に 変更	情報学部教授・宮崎佳典 情報学部教授・大島律子 情報学部講師・大瀧綾乃 情報学部准教授・狩野芳伸	11/6(土)10:35～12:00	浜松キャンパス	興味のある方 ならどなたでも	70	無料	情
第3回 邦人作品の調べ	教育学部講師・服部慶子 教育学部教授・長谷川 慎	2022年 3/12(土)14:00～16:00	静岡市葵生涯学 習センター (アイセル21)	一般市民、 生徒、教員	100	無料	教
安心登山のための読図とナビ ゲーション（中級編）	教育学部教授・村越 真 オリエンテーリング元日本代表選手・ 小泉成行	2022年 3/19(土)9:00～16:00	静岡近郊の里山	下記の①～③ をすべて満た した方。 ①過去に初 級編を受講し た方、又は 地形図の基 礎知識がある 方、②登山経 験者で7km程 度を無理なく 歩ける方、③ YouTubeによ る事前学習（予 習）が可能 な方	20	4,100	教

[主催欄凡例]

人=人文社会科学部 教=教育学部 情=情報学部 工=工学部 農=農学部 地=地域創造教育センター

キ=キャンパスミュージアム グ=グリーン科学技術研究所 サ=サステナビリティセンター

地域創造学環部門の上半期（4月～9月）事業報告

静岡大学地域創造学環のカリキュラムの柱となる「フィールドワーク」の授業では、地域と連携しながら地域課題の解決に取り組んでいます。

2021年度前学期は、静岡県内14箇所において、16のテーマのもとで、フィールドワークを展開しました。

地域創造学環のホームページでは、2020年度の活動をまとめたフィールドワーク報告書や、各フィールドの活動紹介を掲載しています。ぜひご覧ください。

静岡大学 地域創造学環ホームページ
<https://www.srd.shizuoka.ac.jp/>

【2021年度前学期フィールドとテーマ】

フィールド	テーマ
静岡市 清水港周辺地域	清水港周辺地域が“つながる”“ひろがる”“にぎわう”活動
静岡市 庵原地区	庵原地区の地域資源を活かした食・スポーツによる地域活性化
静岡市 おまち	おまちを中心とした静岡市内のにぎわい創出
静岡市 浅間通り商店街	浅間通り商店街のにぎわい創出
焼津市 浜通り	地域住民と高校生との交流に基づいた地域づくり活動
浜松市 浜松文芸館 (公益財団法人 浜松市文化振興財団)	若者の文芸離れを食い止めよう
浜松市 佐久間町	暮らし体験で交流の環づくり
掛川市 田園空間博物館 南遠州とうもの里	子どもたちを呼び込むための環境づくり
御前崎市	御前崎スポーツ振興プロジェクトスポーツによる交流人口の拡大と産業振興の推進
松崎町	①なまこ壁が残る松崎町商店街のにぎわい創出 ②防災と観光の両立
東伊豆町	地域の魅力の再発見と発信への取り組み～地域の人と外部の人との架け橋として～
伊豆半島ジオパーク	①伊豆半島ジオパークにおける環境保全と防災対策 ②伊豆半島ジオパークの持続可能な開発と教育(SDGs/ESD)の推進
多世代の居場所づくり	多世代の居場所づくりと地域福祉資源のネットワーク
学内地域連携拠点	静大発 地域と大学の連携を広めよう!

地域創造学環2020年度フィールドワーク報告会

2021年7月8日(木)、静岡大学の大学会館大ホールにて、「地域創造学環2020年度フィールドワーク報告会」を開催し、学生たちは、2020年度に活動した静岡県内14箇所、16テーマの各フィールドにおける課題

点の説明や解決に向けての進捗状況について発表しました。

今年度は、会場での開催と同時にオンラインでの開催も行い、幅広い地域の方々にご参加いただきました。



■ 浜松文芸館

今年度の浜松文芸館フィールドワークでは、新たな創作活動の種を探するために文芸館周辺のリサーチ活動を「吟行」と名付け、街の魅力を発見し創造的に発信することを目指しています。

まず、浜松城公園、浜松市美術館、松韻亭や街の古本屋さんなどを訪れ、写真やスケッチ、俳句など様々な方法で記録し、文芸館の館長様を交えた報告会を行いました。

その後、フィールドのメンバーがそれぞれクリエイティブ浜松から浜松城までを好きな道で吟行し、文芸館に帰ってオリジナルの吟行マップを作成しました。吟行をしながら浜松の街を歩くことで地域の魅力を再発見し、オリジナルマップの制作と発表によってクリエイティブな発信ができる可能性のあるワークショップだと再確認することができました。



7月には文芸館主催ワークショップのお手伝いをさせて頂き、お手伝いを通して、11月に行う予定のオリジナルワークショップ『吟行でススメ』における改善点や注意点についてディスカッションしました。そこでは、当日のタイムテーブルや、小学生の発想力を引き出すためのアイスブレイクを取り入れる必要性など、具体的なアイデアが出されました。

後期の活動では、オリジナルワークショップの開催による地域の方々との交流を通して、文芸や地域の魅力への理解を深めつつ、新たな地域創造の種を発信していきたいと考えています。



■ 多世代の居場所づくり

「多世代の居場所づくり」(旧県営団地) フィールドでは、2017年度以降、県営団地に着目し、高齢者の居場所づくり活動のサポートを通じて、住民自治の向上を図り、「地域共生社会」の形成にコミットしてきました。コロナ禍を経て、新たに清水区小島地区の龍津寺を中心とした「多世代の居場所づくり」の活動に関わり、特に、防災教育に力を入れながら、幅広い地域課題の解決に取り組んでいます。

2020年度からは、龍津寺で開催されている「子ども寺子屋」に参加させていただき、2021年5月には勝野秀敏住職と防災教育プログラムの打ち合わせを行いました。



6月には、防災クイズを、寺子屋に参加している小学生を対象に実施し、防災意識の向上を図りました。

参加した子どもたちには防災グッズも持ち帰ってもらい、家庭での共有も図れるように工夫しました。今後は、小島小学校での防災教育のプログラムづくりを進める予定です。



地域人材育成・プロジェクト部門の上半期事業報告

地域連携応援プロジェクト

2011年度より「地域連携応援プロジェクト」として、本学学生・教職員が主体となり、すでに地域団体や自治体等と協働で取り組んでいる、または、新たに取り組もうとする地域の活性化につながる活動を学内で公

募し、支援しています。2021年度は19件の応募があり、うち15件を採択しました。年度末には成果報告書を刊行し、学内外に広く配布する予定です。

採択したプロジェクト一覧

部局	代表者	プロジェクト名
人文社会科学部	小二田 誠二	焼津浜通りと小泉八雲～服部家（帆屋）の利活用推進
教育学部	河崎 美保	静岡県内の学校を支援し地域に発信する学習開発プロジェクト
教育学部	郡司 賀透	浜松市天竜地域の特産を活用した小学校理科教材の開発
教育学部	中村 美智太郎	静大生による松崎町「ジオ・温泉クアーツリズム」の開発
理学部	徳岡 徹	伊豆の植物を楽しむプロジェクト
情報学部	杉山 岳弘	天竜浜名湖鉄道のオリジナルフォント制作による地域活性化事業
工学部	立岡 浩一	浜松市と大学区との連携事業～大学生による講座～（小学生児童を対象とした理科工作教室）
工学部	戸田 三津夫	佐鳴湖プラットフォーム形成支援
農学部	笹浪 知宏	浜名湖のアマモ再生事業
農学部	山田 雅章	静岡県産柑橘類から採取した天然リモネンを主成分とするプラモデル用接着剤の開発
農学部	松本 和浩	「居場所」のコロナ禍における変化から本当に大切なものを探る～地域外とのつながり方の違いに着目して～
情報基盤センター	永田 正樹	静岡県袋井市における「FOL(Fukuroi Online Laboratory)」整備事業
教職センター	上地 香杜	地域防災の担い手育成としての大学・高校・保育園の連携-「知識のリレー」によって地域貢献を実現するために-
技術部	楠 賢司	石ノ塔古墳から出土した石室石材の科学的調査
技術部	宮澤 俊義	南アルプスの生物（いきもの）探索プロジェクト～高山帯の微小生物の探索～

静岡大学創立60周年記念事業を継承した連携講座

静岡大学・読売新聞連続市民講座

「リスクに向き合う～危機に備えたまちづくり・くらしづくり～」

本学創立60周年を機に始まった静岡大学・読売新聞連続市民講座は今年で13年目を迎えました。

今年度は第1回、第2回を会場での対面講座と後日オンデマンド配信（期間限定）の2形式で実施しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により第3回、第4回、第5回は対面講座をオンライン講座に切り替え、後日オンデマンド配信（期間限定）の2形式で実施しております。

オンデマンド配信は今年初めての試みでしたが、ご来場に不安のある方や当日受講できない方、またZoomに慣れない方も気軽に聴講することができるため多くの方にご利用いただきました。



・講座形態

第1～2回：対面講座及びオンデマンド講座
 第3～5回：オンライン講座及びオンデマンド講座

- ・対象：一般市民
- ・参加費：無料
- ・連携先：読売新聞東京本社静岡支局

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	6/5 (土)	私たちの周りにおけるリスクとそのマネジメント	村越 真 (静岡大学教育学部/防災総合センター・教授)	対面 58
2	7/10 (土)	化学のチカラで感染症に立ち向かう	鳴海 哲夫 (静岡大学工学部・准教授)	対面 53
3	8/28 (土)	ネットのリスクをどう教えるか	塩田 真吾 (静岡大学教育学部・准教授)	オンライン 36
4	9/25 (土)	感染症のリスクに向き合う	鈴木 哲朗 (浜松医科大学医学部・教授)	-
5	10/16 (土)	感染症ウイルスを測る	朴 龍洙 (静岡大学グリーン科学技術研究所・所長)	-

静岡大学・中日新聞連携講座
 「いのちとくらしを守るイノベーション」

・講座形態： Zoom によるオンライン講座

- ・対象：一般市民
- ・参加費：無料
- ・連携先：中日新聞東海本社

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	10/12 (火)	感染症の原因ウイルスとその対処法	鈴木 哲朗 (浜松医科大学医学部・教授)	-
2	11/8 (火)	土砂災害はいつどこでおきるのか？ ～土砂災害の実態と対策～	今泉 文寿 (静岡大学農学部/防災総合センター・教授)	-
3	11/30 (火)	ALSやガンの原因となる特殊なDNAとは？	大吉 崇文 (静岡大学理学部・准教授)	-
4	12/21 (火)	金融情報システムの障害にどう向き合うか ～最近の障害事例からの示唆～	遠藤 正之 (静岡大学情報学部・教授)	-
5	1/18 (火)	磁性ナノ粒子の磁化機構解明 ～がん診断治療技術への応用を目指して～	大多 哲史 (静岡大学工学部・助教)	-

主催事業

社会連携情報交換会

静岡大学は、さまざまな方たちとの連携を通じて、地域の持続可能性に資する研究と人材育成を行ってきました。

今回の情報交換会では、こうした活動の実際を学内外に広く発信し、さらなる連携活動につなげるとともに、地域における大学の役割を参加者の皆さまと改めて考えました。

- ・日時：2021年9月22日 (水) 14:00～16:00
- ・開催形態：Zoom (ウェビナー)
- ・参加費：無料

- ・プログラム：[各報告]
- ①「デザインによる地域連携の取り組み」川原崎 知洋 (教育学部/地域創造学環)
- ②「NPO法人しずおか福祉のまちづくりを核とした地域支援」香野 毅 (教育学部)
- ③「高校教員と連携した教員養成の取り組み」藤井 真生 (人文社会科学部)
- ④「地域連携応援プロジェクトを軸とした大学と地域社会の連携：伊豆での事例」山本 隆太 (地域創造教育センター)
- ⑤「東伊豆フィールドワークにおける地域-大学連携」地域創造学環学生
- ・主催：静岡大学サステナビリティセンター、静岡大学地域創造教育センター
- ・共催：静岡大学地域創造学環

主催 静岡大学 サステナビリティセンター
 静岡大学 地域創造教育センター
 共催 静岡大学 地域創造学環

オンライン開催
 2021年 9月22日(水)
 14:00～16:00
 (Zoom開催 13:45～)

社会連携情報交換会

開催趣旨
 静岡大学は、さまざまな方たちとの連携を通じて、地域の持続可能性に資する研究と人材育成を行ってきました。今回の情報交換会では、こうした活動の実際を学内外に広く発信し、さらなる連携活動につなげるとともに、地域における大学の役割を参加者の皆さまと改めて考えました。

プログラム
 【報告の場】 主催 静岡大学 サステナビリティセンター
 【各報告】
 ・川原崎 知洋 (教育学部/地域創造学環) 「デザインによる地域連携の取り組み」
 ・香野 毅 (教育学部) 「NPO法人しずおか福祉のまちづくりを核とした地域支援」
 ・藤井 真生 (人文社会科学部) 「高校教員と連携した教員養成の取り組み」
 ・山本 隆太 (地域創造教育センター) 「地域連携応援プロジェクトを軸とした大学と地域社会の連携：伊豆での事例」
 ・地域創造学環学生 「東伊豆フィールドワークにおける地域-大学連携」

【閉会の辞】 同席 香野 毅 (地域創造教育センター)
 【司会】 山本 隆太 (地域創造学環)

開催形態：Zoom (ウェビナー)
 ・参加費：無料
 ・参加方法：22日午後14時～16時(17時) 事前申込制(申込は9月17日) 下記URLまたはQRコードからの申込下さい
<https://forms.gle/8e8e8e8e8e8e8e8e>

お問い合わせ先：静岡大学サステナビリティセンター shizuoka.sus.ctr@gmail.com

企画協力事業

令和3年度市民大学リレー講座 SDGs ～持続可能な社会の実現のために～ 「未来から今を見つめるSDGs」

- ・日時：2021年9月24日（金）～11月12日（金）
18:30～20:00
 - ・場所：静岡市役所静岡庁舎3階 食堂スペース「茶木魚」
 - ・受講料：無料
 - ・プログラム
- ①9/24（金）「誰一人とり残さない」をあらためて考える」
講師：堂園 俊彦（静岡大学サステナビリティセンター長）



- ②10/1（金）「営農型太陽光発電と農業の持続可能性」
講師：谷 晃（日本学術会議連携会員、静岡県立大学学長補佐・SDGsイニシアチブ推進委員会委員長、食品栄養科学部環境生命科学科教授）
- ③10/15（金）「持続可能で健康的な食事」
講師：小山 ゆう（静岡英和学院大学短期大学部・食物栄養学科准教授）
- ④10/29（金）「科学技術コミュニケーションのすゝめ」
講師：村井 貴（常葉大学造形学部・造形学科講師）
- ⑤11/12（金）「未来と世界と人間を考え、動く力：大学が目指す人づくり」
講師：川崎 一平（東海大学海洋学部・海洋文明学科教授）
- ・主催：静岡英和学院大学、静岡県立大学、静岡大学、東海大学、常葉大学、静岡市

詳細 HP（静岡市）

https://www.city.shizuoka.lg.jp/000_002384.html

市民開放授業

本年4月より始まる予定でした2021年度前学期市民開放授業について、新型コロナウイルスの感染が拡大している現状で、収束の見通しが立っていないことから、受講者の皆様の健康・安全面を最優先に考慮し、止む無く中止いたしました。

2021年度企画実施委員会

当センターには、「企画実施委員会」が組織されています。地域連携・課題解決に関する事項や全学公開講座の企画・立案・実施に関する事項、その他大学開放および地域人材育成に関する事項について検討しています。今年度の委員は以下のとおりです。

阿部 耕也 地域創造教育センター長
江口 昌克 地域創造教育センター教授
山本 隆太 地域創造教育センター准教授
川崎 和也 地域創造教育センター特任助教
笠井 仁 人文社会科学部教授
渋江かさね 教育学部准教授
酒井三四郎 情報学部教授
三重野 哲 理学部教授
戸田三津夫 工学部准教授

檀本 正明 農学部准教授
水谷 洋一 地域創造学環教授
山本好比古 大学教育センター准教授
坂下 裕一 学務部長（兼）地域連携推進課長

地域と大学 第43号

発行日——2021年10月6日
発行——静岡大学地域創造教育センター
編集——脇坂 友紀
〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
（事務局別館2階）
TEL: 054-238-4817 FAX: 054-238-4295
E-mail: kaiho@suml.cii.shizuoka.ac.jp
URL: www.lc.shizuoka.ac.jp/
（事務局）学務部地域連携推進課 ☎054-238-4055